

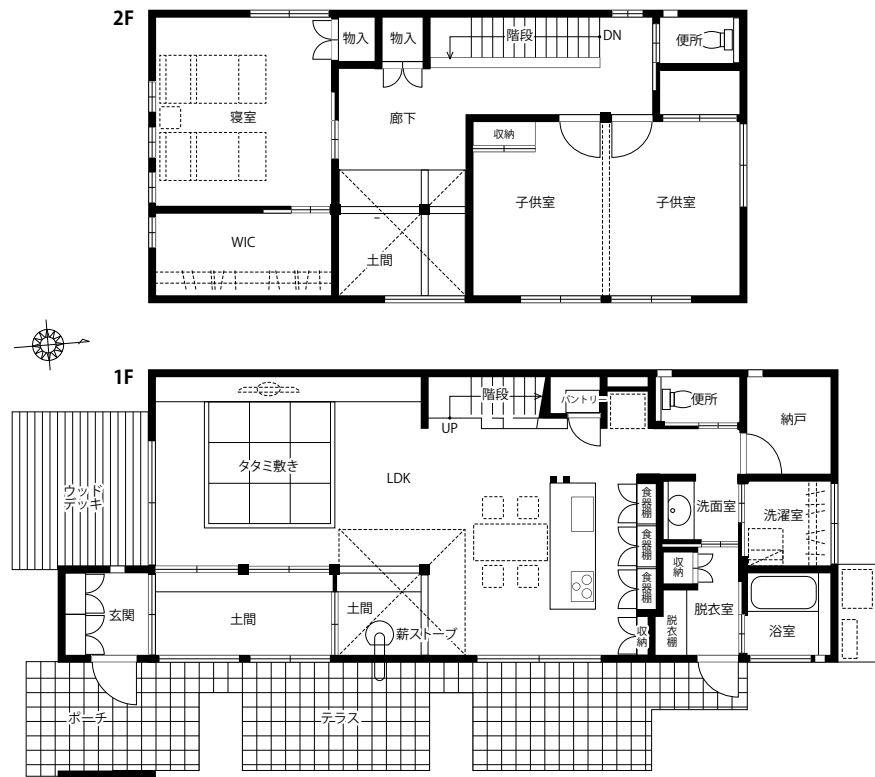


常設モデルハウス
ナチュラルモダンな無垢材の家



オリジナルウッド

〒929-0323 河北郡津幡町津幡二564-2
tel 076-288-3954 fax 076-288-6053
mail info@originalwood.jp
<https://originalwood.jp/>



光の加減で微妙な陰影が生まれ、
季節ごと、時間ごとに
表情も変わっていく室内。
木や自然素材を上手く活かした家は、
一言では語りつくせない魅力がある。

DATA	敷地面積 273.03㎡ (82.59坪)	1階床面積 84.93㎡ (25.78坪)
	延床面積 142.61㎡ (43.13坪)	2階床面積 60.68㎡ (18.35坪)

オリジナルウッド

〒929-0323 河北郡津幡町津幡二564-2
tel 076-288-3954 fax 076-288-6053
mail info@originalwood.jp
<https://originalwood.jp/>



OPEN MODEL HOUSE

家族が休日、のんびりと過ごすことができる家 常設モデルハウス公開中

自信を持つ木材選び、ナチュラルかつ機能的なデザイン、毎日過ごすからこその肩のこらない空間にした、オリジナルウッド初のモデルハウス。見て、感じて、体験していただければきっと伝わります。



[注意事項]入室時はマスク着用のうえ、手指の消毒にご協力ください。



見学のご予約はお電話、メール、
予約フォームにてお願いします。
TEL 076-288-3954
mail info@originalwood.jp

無垢材の家 ナチュラルモダンな

ORIGINAL WOOD オリジナルウッド

「木の良さを住まいに活かす」といっても
そのスタイルは実にさまざま。
自然素材を用いながら
デザイン性にも優れた住まい。
魅力が凝縮された一棟を見てみよう。

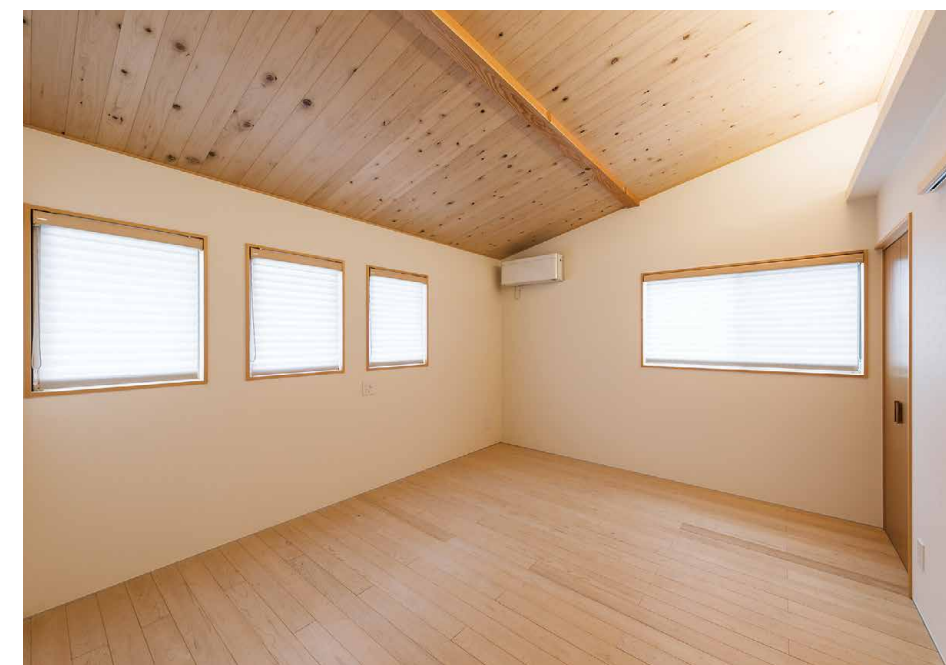
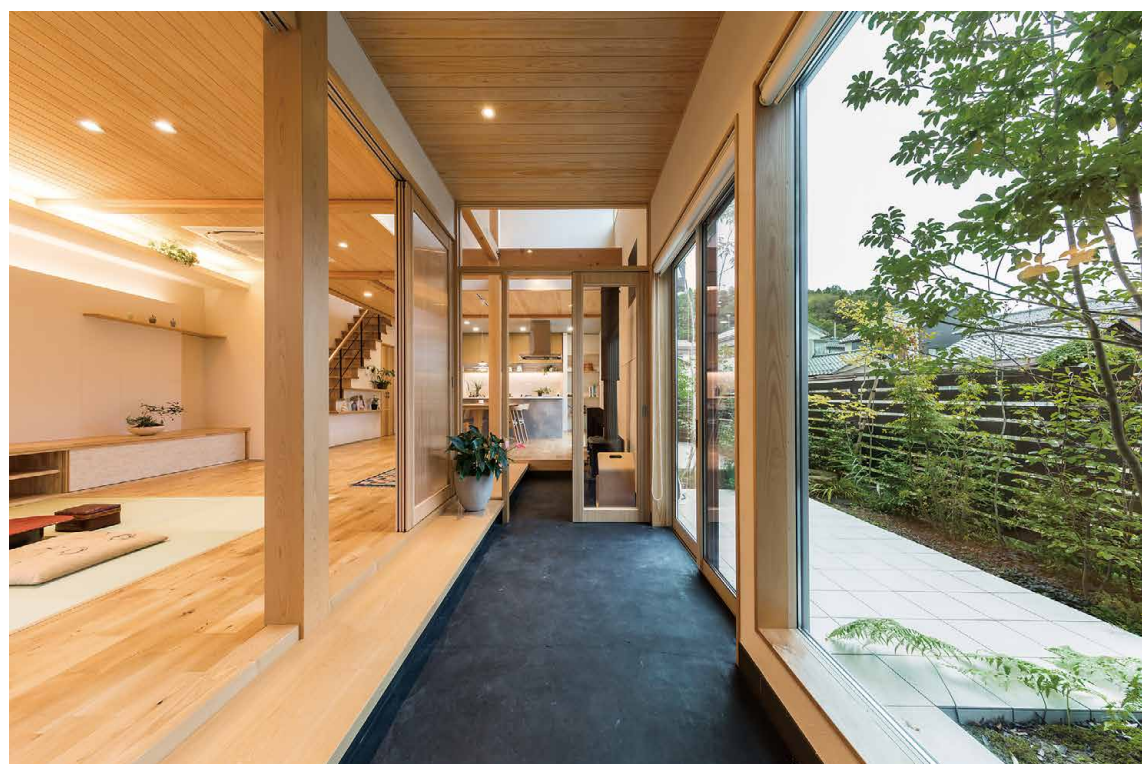




緑の植栽が映えるアプローチを抜け、扉を開けると庭の木々とリビングとを一体化させるかのようにつながる墨モルタルの土間。ダイニングの傍にある薪ストーブで、家族みんなが腰掛けて団らんというのも楽しい。



寝室の床と天井の板、風呂場には県産材の能登ヒバを使う。調湿や防虫効果にも優れ、北陸の気候風土にも適した木材。家族の健康も守ってくれる。



製材業からスタートし、昨年、社名を坂本木材建設からオリジナルウッドに変更。「無垢の素材を上手く利用し、独創的でデザイン性豊かな住宅建築を目指す」という理念のもと、この度、初めてのモデルハウスを建築した。コンセプトは、「家族が休日、のんびりと過ごすことができる家」。そんな住みやすさを実感できる家を見てみよう。

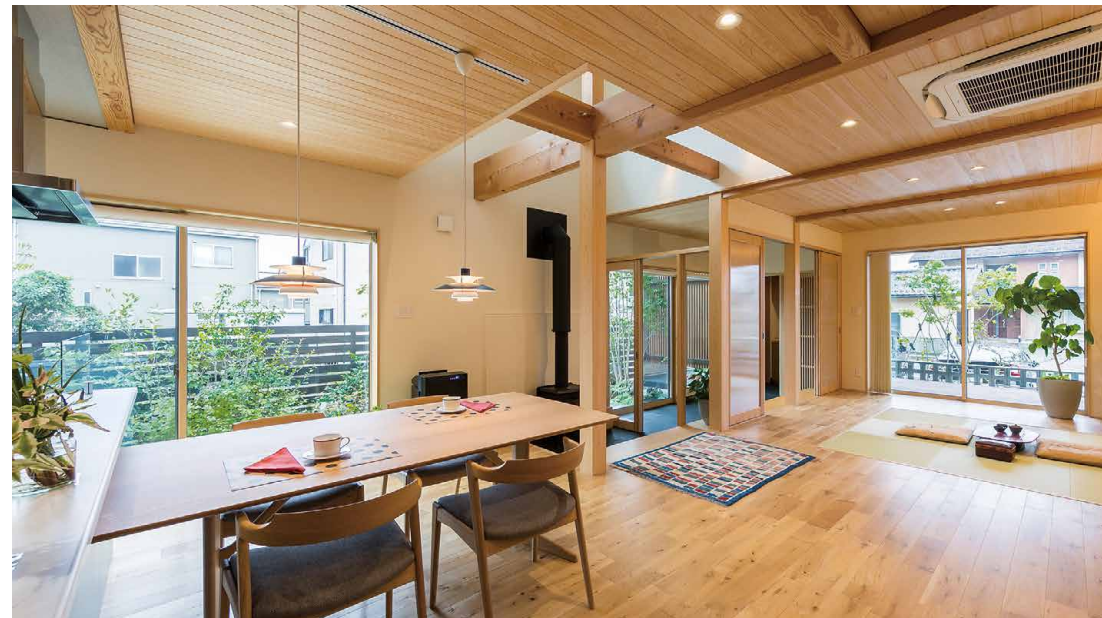
社名にもあるとおり、木には自信を持っているという。柱に用いるヒノキは、岐阜県まで足を運び、必ず現物を見て、納得のいく木材だけを仕入れている。モデルハウスにも、柱に東濃ヒノキ、リビングの床にオーク、梁にはベイマツ、そして2階の寝室は、石川県木のアチル能登ヒバが床と天井板に使われるなど、無垢材をふんだんに取り入れている。だが、木に圧を受けるような感覚は決してない。

「木の持つ温かみ、木肌の美しさなど、木の特性を活かしつつ、やりすぎないデザイン」というのを心がけています。柱も主張すぎず、キッチンや柱は差し色としてこげ茶色に塗装するなど、スタイリッシュな建具との統一感を意識しています。また、室内の配色は、本来の木調、オフホワイトと差し色の黒だけで一見、寂しく見えるかもしれませんが、これは暮らし始めたら自然と家具や

家電で色が増えてしまうため、あえて、色が多くならないような配慮です。ただオフホワイトといっても、左官職人が塗った珪藻土の壁、キッチン壁のタイル、テレビボードの紙布やエコラットなど質感で変化を生み出すようにしています」と話す、社長の坂本憲章さん。無垢材の家といっても、木のどっしりとした重厚感ではなく、ナチュラルで軽やかな印象を受けるのは、深く考えられた、木材×異素材の使い方にあるということが伺える。

もう一つの特徴に、玄関扉を開けて、一歩足を踏み入れれば、驚くほど広く感じる造りということがある。だが、敷地の間口はおおよそ11メートル。室内の横幅は、畳3枚半分という少なさだ。広く見せるために、個別の廊下は設けず、土間、リビング、庭、ウッドデッキまでがすべて一体となったように感じる空間で、大きな窓ガラスから視線が抜けていく。坪数以上に広く感じさせる工夫が施されている。これは、土地には必ず制限がある。何かウィークポイントがあった場合にも工夫次第でいかようにも快適な住まいを建てることのできるということを伝えたいという意図もあるそうだ。このすみずみまで意匠が光るモデルハウスをぜひ体験してほしい。

木材の選定力はもちろん すみずみまで意匠が光る



キッチンに立てば、庭、リビングダイニング、その先に広がるウッドテラスまですべて見渡せ、吹き抜けから2階にいる家族の気配も感じられる。中庭のタイルテラスでBBQを楽しんだり、緑あふれる雑木を眺めるのも心温まる時間。



天井まで伸びるヒノキの柱×ベイマツの化粧梁。単なる構造体を超えた美しさが宿る。能登珪藻土を塗った壁からも手仕事の温もりが感じられる。



和室は欲しいが毎日使わない。それなら、いっそリビングを畳敷きにしてみても？
ゴロンと寝ころべば、ヒノキの美しい羽目板が目前に広がり、木の香りが癒しをもたらす。ソファを置いても良いし、座卓でもかまわない。フラットにすることで部屋の使い方の選択肢が広がる。

